

大津企業景況調査報告書

(第102回)

令和5年 7月～9月期 実績

令和5年10月～12月期 見通し

大津商工会議所

大津企業景況調査について
(令和5年7月～9月期)

1. 調査方法

大津商工会議所会員企業 100 社にオンライン並びに FAX による調査

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
製造業	12社	9社	75.0%
卸売業	13社	10社	76.9%
小売業	25社	17社	68.0%
サービス業	31社	17社	54.8%
建設業	19社	17社	89.5%
合計	100社	70社	70.0%

3. 調査期間

調査対象期間は令和5年7月～9月とし、調査時点は令和5年9月1日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指数として DI 指数を採用した。DI 指数とは Diffusion Index (景気動向指数)の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差し引いた数値である。

「業況」、「売上高」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は、前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金借り入れの難易度」の DI 指数は、3 ヶ月前との比較である。

「採算(経常利益)の水準」、「取引の問い合わせ」の DI 指数は、過去比較でなく、水準を聞いたものである。

景況感は全体でマイナス域に逆戻りも、サービス業は大幅改善

令和5年7月～9月期の大津企業景況調査の結果がまとまった。調査結果を示す指数としてDI指数（景気動向指数）を採用している。DI指数は実数値などの上昇率を示すものでなく、強気、弱気などの経営者マインドの相対的な広がりの意味する。

全体

景況感は、今四半期の全体の業況判断DI（前年同期比）が前四半期の+3から今四半期は▲6となり、再びマイナス域に戻った。業種別では、建設業が前期の±0から▲35へ、製造業も±0から▲33へと大幅悪化し、小売業も+11から±0へと悪化した。卸売業は±0を維持した。一方、コロナ規制の緩和で人流が回復したこともあり、サービス業は±0から+29へと大幅改善し、業種により大幅悪化と大幅改善が入り混じる2極化状況となっている。

先行きの業況判断DIは、全体では今四半期の▲6から来四半期は+4へと反転するとみている。建設業では▲35から▲12へ、製造業では▲33から▲22へとマイナス幅が縮小するとみている。サービス業は+29から+41へさらにプラス幅が拡大するとみている。卸売業や小売業は±0を維持するとみており、全体として楽観的な先行き見通しとなっている。

□ 業況判断DI（前年同期比）は、全体では再びマイナス域に戻るも、サービス業は改善進む

「前年同期比でみた業況判断DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、全体では悪化した。サービス業はコロナの収束で人流が戻ってきたことから、±0から29ポイントの大幅改善で+29となった。一方で、原材料や石油価格の高騰、賃金アップなど費用の増加に苦しむ建設業は±0から35ポイントの悪化の▲35へ、製造業も±0から33ポイント悪化の▲33となり、小売業も+11から11ポイント悪化して±0となるなど、全体としては、厳しい業況判断となっている。

□ 売上DI（前年同期比）は、全体でプラス状態を維持も、製造業・建設業・小売業で悪化

「前年同期比でみた売上DI(全体)」(「増加」－「減少」)は、前四半期の+10から今期は+4へと小幅悪化した。業種別では、製造業が▲13から▲44へと大幅悪化した。全国的な製造業の回復も当地には波及効果は見受けられない。建設業も±0から▲12へ、小売業も+5から±0へと悪化した。一方で、卸売業は+40から+50へ、サービス業も+13から+24へとプラス幅が拡大した。

□ 採算DI（前年同期比）は、製造業・建設業・小売業で悪化も、サービス業では大幅改善

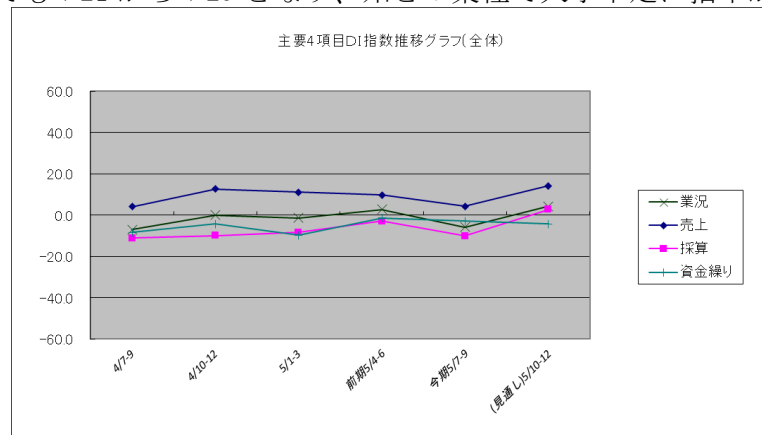
「前年同期比でみた採算(経常利益)DI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、前四半期の▲3から今期は▲10へと小幅悪化しているが、業種により濃淡がある。建設業では▲17から▲42へとマイナス幅が拡大し、製造業も±0から▲22へ、小売業も+5から▲12へと悪化した。一方で、サービス業は▲4から+24へと、大幅に改善し、久しぶりにプラスに転じた。

□ 資金繰りDI（3ヵ月前比）は、サービス業で改善も、他業種では悪化し、卸売業で顕著

「3ヵ月前比でみた資金繰りDI(全体)」(「好転」－「悪化」)は、全体では前期の▲1から▲3へと小幅悪化した中で、サービス業は▲9から+35へ大幅改善した。卸売業は+10から▲20へ、製造業も±0から▲22へ、建設業も+8から▲12へと大幅悪化した。材料費や人件費の増加に加えてコロナ融資の返済開始で資金繰りに窮している様子が見え始める。

□ 従業員DI（前年同期比）は、建設業で若干緩和の動きも、全体では人手不足感は高まる

「前年同期比でみた従業員DI(全体)」(「不足」－「過剰」)は、全体では前四半期の+26から今期は+30へと人手不足感は高まっている。建設業では+42から+29へと、逼迫感緩和している様子も見えるが、サービス業では+26から+35へ、製造業も+25から+33へ、小売業でも+21から+29となり、殆どの業種で人手不足に拍車がかかっている。

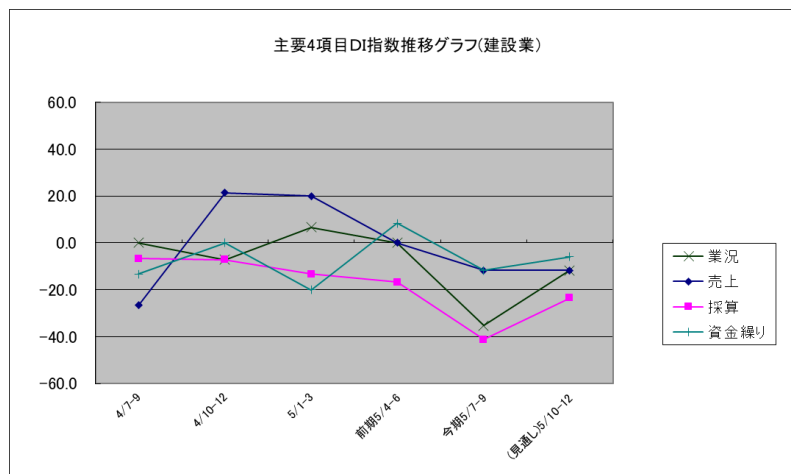


建設業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の±0 が今四半期は▲35 へと大幅悪化した。個別指標をみると、「売上」は前四半期の±0 から今四半期は▲12 へと悪化が進み、「採算」についても▲17 から▲41 へ24 ㊦の悪化を示している。現場の声からは、リフォーム事業を中心に回復の動きも出てきている中、建材の価格上昇が利益やその水準の悪化に大きく影響している様子もうかがえる。

「資金繰り」については、前四半期の+8 から今四半期は▲12 へと再び悪化しており、前期から反転して、業況の悪化が今期の資金繰り面に悪影響を及ぼしている様子がうかがえる。

「従業員」は前四半期の+42 から今四半期は+29 へと緩和されているものの、依然として根強い人手不足状態が続いていることに変わりはない。



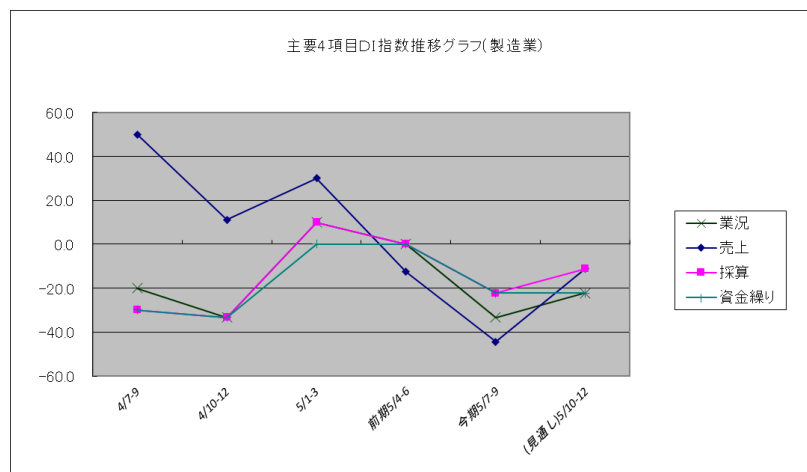
製造業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の±0 から今四半期は▲33 へと大幅悪化した。個別指標をみると、「売上」は前期の▲13 から▲44 へと悪化し、マイナス幅がさらに拡大した。

「採算」についても±0 から▲22 へ、採算の「水準」についても+50 から+22 へと悪化している。全国的には輸出企業を中心に円安効果により、業界全体としては改善の動きも表れている一方で、当地の中小製造業では売上の伸び悩みに加えて、原材料の高騰や石油価格の高止まり、賃金のアップなどを背景に、業況は逆に悪化している様子がうかがえる、

「資金繰り」については±0 から▲22 へと悪化しており、売上や採算面での悪化が資金繰りに影響しているものと思われる。

「従業員」については、前四半期の+25 から今四半期は+33 となり、前期に引き続き人手不足感は高まってきており、人材確保に苦労している様子がうかがえる。

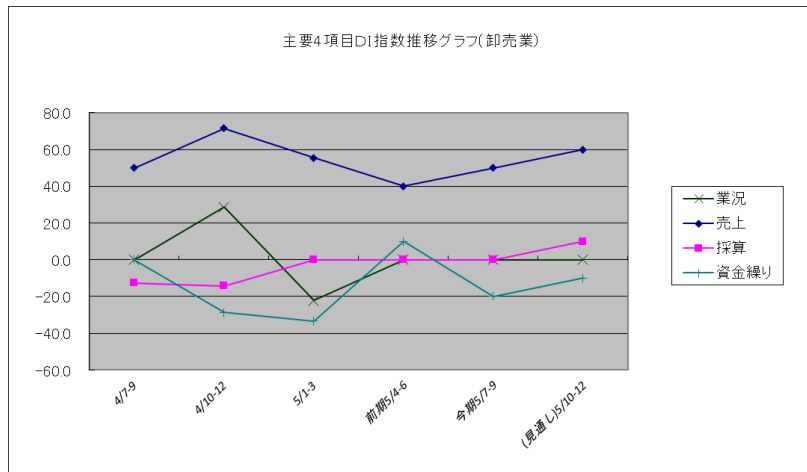


卸売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の±0 を今四半期も維持している。個別指標をみると、「売上」は前四半期の+40 から今四半期は+50 となり、プラス幅が拡大した。「採算」についても前四半期の±0 を維持している。採算の「水準」については、前四半期の+50 から今期は+40 へと小幅悪化したが、全体として、コロナ後の経済の活発化の影響が当業種にも表れているものと思われる。

「資金繰り」については、前四半期+10 から今四半期は▲20 へと大幅に悪化している。現場からの声は寄せられていないが、売上が回復基調にある中、運転資金の増加や各種経費の値上がりやコロナ融資の返済開始などで、資金繰りに苦労している様子がうかがえる。

「従業員」は前四半期の+20 を今四半期も維持しており、人手不足感に変化はみられない。



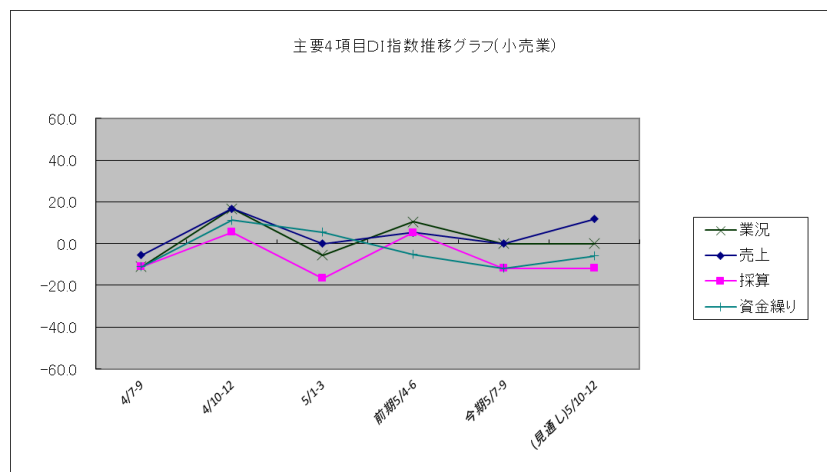
小売業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の+11 から今四半期は±0 へと悪化した。個別指標をみると、「売上」は+5 から±0 へ、「採算」についても+5 から▲12 へ、また採算の「水準」についても+21 から▲6 へと悪化しており、当業種での改善の動きは足踏みしている様子がうかがえる。価格転嫁が一服する中、最低賃金の上昇や社員の給料アップなど人件費の上昇が業況判断の悪化につながっていると思われる。

このような状況下においても、「事業計画をしっかりと立てて、計画を実行し、日々の収支バランスを取りながら経営を進めていく」という積極的な動きも現場の声から聞こえてくる。

「資金繰り」は前四半期の▲5 から今四半期は▲12 へと若干悪化しており、売上や採算の悪化に伴う運転資金の確保やコロナ融資の返済の負担などにより資金繰りに苦労している様子が見て取れる。

「従業員」は前四半期の+21 から今四半期は+29 へとしており、人手不足感が高まっており、人材確保に苦労している様子がうかがえる。

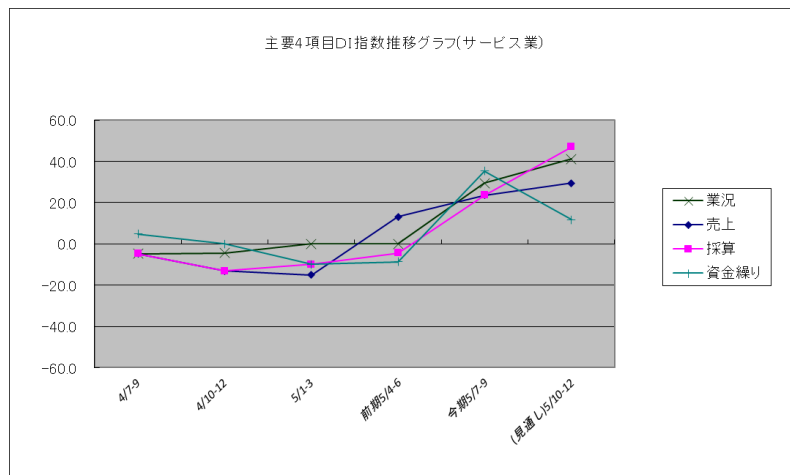


サービス業

DI 指数をみると、「業況」は前四半期の±0 から今四半期は+29 へと大幅改善し、3 年半ぶりにプラスに転じた。個別指標をみると、「売上」は+13 から+23 へとプラス幅が拡大し、「採算」についても▲4 から+24 へと大幅改善し、採算の「水準」も+18 と良好な数字を維持している。コロナ規制の緩和で人流が戻り、経済活動が活発化する中で、事業機会が拡大しているものと思われる。現場からは「コロナ融資の返済に物価高や人手不足が重なり、資金繰りが厳しく、売上は確保できては仕入れや人件費の増加で思うように利益を出せていないが、今後、利益を確保していくために、値上げと同時に商品の質を高めて、新規顧客をリピーターに育てていくことに注力する」という前向きな声も聞こえてくる。

「資金繰り」については前四半期の▲9 から今四半期は+35 へと大きく改善した。売上と採算の両面での改善が資金繰りに良い影響を及ぼしているものと思われる。

「従業員」は前四半期の+26 から今四半期は+35 となり、人手不足感がさらに高まっている。コロナ禍後の人々の活動が活発化する中で人材の確保が大きな課題となっている。



来四半期(3ヵ月後)の「業況」DIは、今四半期の▲6 から+4 へと改善するとみている。個別指標をみると、「売上」は+4 から+14 へ、「採算」についても▲10 から+3 へ、採算の「水準」についても+14 から+24 へと、いずれも改善するとみている。「従業員」については+30 から+31 へと、逼迫した状況が続くとみている。令和5年8月の滋賀県全体の有効求人倍率は0.95倍となっているが、建築・土木関係では4.8倍、接客・給仕では2.4倍になっており、業種により状況が異なることに注意が必要である。

業種別の「業況」DIでは、卸売業や小売業は±0を維持するとみているほか、今期29%の改善を示したサービス業は今期の+29からさらに改善して+41へ、建設業も▲35から23%改善して▲4へ、製造業も▲33から▲22へとマイナス幅が縮小するとみているなど、全体として改善の方向へ向かうと想定している状況がうかがえる。

3ヵ月後の設備投資については、「計画がある」と回答した割合は20%で、3ヵ月前の17%から若干上昇しており、全国的な設備投資意欲の回復が、当地での設備投資への機運に影響を及ぼしている様子がうかがえる。業種別では、3ヵ月前に一旦20%へ低下した卸売業が今期は40%へ、小売業も11%から18%へ上昇している。

投資内容の割合は、「設備更新」が44%で最も多く、引き続き老朽化設備の入れ替えは必要と判断していると思われる。「生産力増強」については3ヵ月前の17%から今期は13%となり、さらに低下した。一方で、「合理化・省力化」については、3ヵ月前の28%が今期は31%となり、生産性の向上に結び付く投資に引き続き注力している様子もうかがえる。

投資方針は「計画通り」が今期も3ヵ月前と変わらず75%で、「景気により見直す」が前期16%から今期は25%と若干上昇したものの、全体として計画分については実行に移す意向が強い様子もうかがえる。

MBA・中小企業診断士 松島 明男

(今の経済情勢に対する意見)

以下は、今の経済情勢に対する意見である。

- ・ガソリンの単価が180円/ℓや軽油の価格上昇に伴い燃料費の負担増。補助金やガソリン税のトリガー条項の解除でせめて140円代にしてほしい。政府は税金の取り過ぎ。
(製造業)
- ・コロナ渦の時以上に、感染者が増えている。「医食同源」という言葉から「食」に携わる者は「医」も知る必要があります。口にするもの、体に入れるものが本当にそれでいいのでしょうか？経済が乱れると全てが乱れているように思います。体の健康は「食」の乱れから。働く人たちが今日も元気で働けるように、せめて、私たちが提供する製品だけでも、守らねばと思います。(製造業)
- ・労務費率が高い業種で最低賃金上昇が影響するのに加え、有給消化が加わり、「働く意識」の変化と重なる。本質である働く事を通じての人の成長(幸福)と乖離して人が育たない時代になった。この働き方改革は何か違うと思う。(小売業)
- ・ビックモーターの件で業界がたたかれている。真面目にしていると同じ目でみられる。
(小売業)
- ・今回商工会ギ所の支援により銀行より改装のため借入金300万円調達により今月も30万円を補うことが出来た。改装には時間もかかり半年のずれもあるので今は厳しいですが、好転に期待しています。まずこの夏に計画をしっかり立てて、できることから方針に添って実行をすることが大事。まず月々の収支バランスを取り返すこと。(小売業)
- ・コロナ規制の緩和で全産業が向転にむかっているが来年度の動向が気にかかる。不安である。過去3年間の需要が一気にふき出したなら来年は反動があるのか？(サービス業)
- ・新型コロナウイルス禍の資金支援で借入金が増え膨らんだところに物価高や人手不足が重なり、資金繰りが厳しくなっている。売上は確保できても仕入れや人件費がかさんで思うように利益を出せていない。投資力のある大手は人材獲得のために給料を上げたり、機械化を進めたりしているが、小規模事業者はこうした対応も難しく厳しい状況にある。今後、利益を確保していくには「値上げ」と同時に商品の質を高めて、新規顧客をリピーターに育てていくことが大事なことだと思っている。(サービス業)
- ・日本の経済情勢より仕事(受注)が一定ならよいのですが。(建設業)
- ・コロナ明け、リフォームが活発になっている。住宅建材の価格上昇が痛い。(建設業)

以上

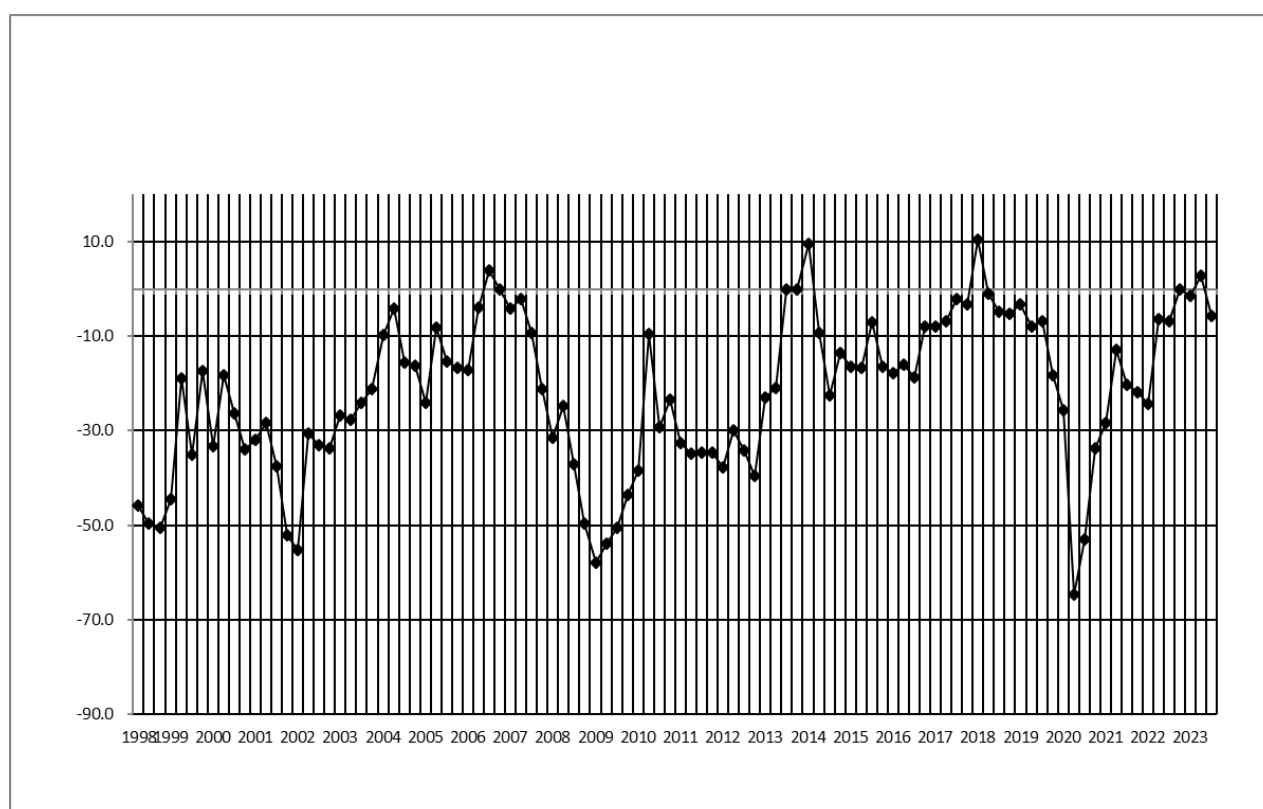
DI 指数一覧表

	業 況		売 上 高		採 算 (経常利益)	
	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し
全 体	▲5.7	4.3	4.3	14.3	▲10.0	2.9
建 設 業	▲35.3	▲11.8	▲11.8	▲11.8	▲41.2	▲23.5
製 造 業	▲33.3	▲22.2	▲44.4	▲11.1	▲22.2	▲11.1
卸 売 業	0.0	0.0	50.0	60.0	0.0	10.0
小 売 業	0.0	0.0	0.0	11.8	▲11.8	▲11.8
サービス業	29.4	41.2	23.5	29.4	23.5	47.1
	前年同期との比較		前年同期との比較		前年同期との比較	

	採算 (経常利益) の水準		取引の問い合わせ		従 業 員	
	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し	7-9 月期 動 向	10-12 月期 見 通 し
全 体	14.3	24.3	▲11.4	▲2.9	30.0	31.4
建 設 業	11.8	29.4	▲17.6	▲5.9	29.4	35.3
製 造 業	22.2	11.1	▲33.3	▲33.3	33.3	44.4
卸 売 業	40.0	40.0	0.0	10.0	20.0	20.0
小 売 業	▲5.9	5.9	▲29.4	▲5.9	29.4	23.5
サービス業	17.6	35.3	17.6	11.8	35.3	35.3
	今期水準と来期見通し		今期水準と来期見通し		前年同期との比較	

	資金繰り		長期資金借入難易度		短期資金借入難易度	
	7-9月期 動向	10-12月期 見通し	7-9月期 動向	10-12月期 見通し	7-9月期 動向	10-12月期 見通し
全体	▲2.9	▲4.3	▲1.4	▲1.4	▲2.9	0.0
建設業	▲11.8	▲5.9	5.9	5.9	0.0	0.0
製造業	▲22.2	▲22.2	11.1	11.1	11.1	11.1
卸売業	▲20.0	▲10.0	▲10.0	▲10.0	▲10.0	0.0
小売業	▲11.8	▲5.9	▲5.9	▲5.9	▲5.9	0.0
サービス業	35.3	11.8	▲5.9	▲5.9	▲5.9	▲5.9
	3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較		3ヶ月前との比較	

本調査開始（1998年 第二四半期）以降 業況DI指数推移グラフ（全体）



大津商工会議所

〒520-0806

滋賀県大津市打出浜2番1号

コラボしが21 9階

TEL : 077-511-1500

FAX : 077-526-0795

URL <http://www.otsucci.or.jp/>

(R5.12.7 訂正)